



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2021年
No.9
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

病態禁忌



事例

【事例の詳細】

当薬局を利用している80歳代の患者が片頭痛のため医療機関を受診し、ロキソプロフェン錠60mg、レバミピド錠100mg、レルパックス錠20mgが処方された。処方監査を行った薬剤師は薬局で管理している薬剤服用歴を見て、併用薬にエフィエント錠3.75mg、既往歴に心筋梗塞の記載があることを確認した。レルパックス錠20mgは心筋梗塞の既往歴がある患者に禁忌であるため、処方医に疑義照会を行った結果、薬剤が削除になった。

【推定される要因】

片頭痛治療薬を処方する際、処方医は患者の症状に意識が向き、患者の基礎疾患や既往歴を見落としした可能性がある。

【薬局での取り組み】

患者に新たに処方された薬剤を調剤する際は、併用薬だけでなく、患者の疾患・既往歴も確認する。



その他の情報

レルパックス錠20mgの添付文書（一部抜粋）

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

2.2 心筋梗塞の既往歴のある患者、虚血性心疾患又はその症状・兆候のある患者、異型狭心症（冠動脈攣縮）のある患者〔不整脈、狭心症、心筋梗塞を含む重篤な虚血性心疾患様症状があらわれることがある。〕



事例のポイント

- レルパックス錠20mgは、上記（2.2）の他に、脳血管障害や一過性脳虚血発作の既往のある患者や末梢血管障害を有する患者にも禁忌である。また、エルゴタミン誘導体含有製剤、他の5-HT_{1B/1D}受容体作動薬、HIVプロテアーゼ阻害薬（リトナビル、インジナビル硫酸塩エタノール付加物、ネルフィナビルメシル酸塩）との併用が禁忌である。
- レルパックス錠20mgを初めて調剤する際は、患者からの聴き取りやお薬手帳、医療情報連携ネットワークなどから疾患や既往歴、併用薬などの情報を収集することが必須である。
- レルパックス錠20mgの添付文書には、片頭痛の発現時にのみ使用し、予防的には使用しないこと、効果が不十分な場合には追加投与をすることができるが、前回の投与から2時間以上あけることなどが記載されている。薬剤を交付する際は、服用方法や服用に関する注意点について患者に丁寧に説明する必要がある。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。